

去る 8 月 9 日、福岡アジア都市研究所において、「2013 年アジア都市景観賞」日韓合同選考会が開かれました。景観賞主催 4 団体の内、日本国内に属する「福岡アジア都市研究所」と「アジア景観デザイン学会」の 2 団体の代表に加え、神戸芸術工科大学、九州大学、そして韓国・東西大学と桂園芸術デザイン学院の教授の方々にもご参加いただき、都市計画や都市景観の視点から、日本と韓国の申請案件について審議しました。

地域や国が異なるにもかかわらず、今回の案件は偶然にも全て、「水」に共通点があり、モーンスンアジアの一体性を改めて印象付けられました。また、「開発一辺倒」の傾向が強かった過去の案件に比べ、今回は「景観の遺伝子」や「心に響く都市景観の価値」といった概念が見られ、4 回目を迎えるアジア都市景観賞がステップアップし、新たな転機を迎えていることを実感した選考会となりました。

日韓合同選考会で最終候補として推挙された日本と韓国の案件は、9 月下旬に開催予定の最終審査会に進み、他地域の案件と併せて審査され、11 月 26 日の表彰式において受賞都市が発表される予定です。



選考会の様子